

Let's talk together!

メンタル通信

12月にはみんなで笑おうよ

副理事長 服部潤吉

昨年の夏から、虹の再建を目指して、尋ねまわってきた。中古ビルの改修案は2回とも大改修が必要で、多額のお金がかかり、結局大家のほうから断ってきた。当初の復興基金の補助金ではとても合わなかったのだ。

山の方の学校が空いているという話も聞いた。しかし、障害者は町に住めないのか、メンバーは生活をしていかななくてはならないのだ。マイカーなど持っている人はいない。改修費はもっとかかるだろう。厚労省は、空きビル、空き学校を再利用をと繰り返し言っているが、実態はこれだ。

アパートの改修も検討した。4世帯のアパートに8人で住めないかというもの。しかし、同じ部屋に同居するのは、仮設でもうたくさんだ。だいたい他人同士が、ずっと同じ部屋に住むなんて3日で参ってしまう。精神障害がある人は我慢しなさいとでも言うのだろうか。それに、虹のメンバーは食事や日常生活の支障があり、スタッフの援助が必要なのだ。共同のキッチンや食堂も最低の条件だ。とすれば、多額の改修費をかけても4,5人しか住めないことになる。

一般の住宅も見た。かなり、老朽化しており、草に覆われ廃墟状態だった。外壁、エアコン、風呂、トイレなど、入居後まもなくまた改修しなければならないだろう。そして年が明けた。

大きな寮のような建物もあった。30人くらいが住めるもので、業者が破産して競売に出されていたものだ。なるほど建物は大きいし、食堂もある。しかし、建物、設備は傷みに傷み、何よりもまだ大勢の人が住んでいた。

この人たちを早急に全員退去してもらうのは不可能だ。

どう考えても、資金が足りない。

また規則では補助金は、業者が新築する際には出せないという。

2ページに続きます

G.H.上除寮の皆さんより

この写真のタイトルは「楽園」です。

この写真は今年のカメラのイソペで富士フィルムの新発売ということでフィルムとデジカメのことで、悠久山で5月14日に撮影会が行われた写真です。アマチュアカメラマンが20名とスタッフでした。モデルは新人のトップモデルでした。この写真を写すことで、自分は、モデルの前のほうを広くしようと思い、プリントのL判はだいぶ広がったのですが、本店の店長さんをお願いしてトリミングしてもらいました。作品は四ツ切でイソペ本店に出してもらいました。賞品は三千円の商品券と景品をいただきました。6月22日、イソペ本店に入ったら従業員のさんから「おめでとう」と言われてとてもうれしかったです。



私は姓名判断を占っている

樋口雅也という者です。姓名判断とは名前と運命を占うことです。それではその一部を紹介します。

【祖運格】先祖から受け継がれた運気。あるいは、先輩(年配)との対運。

【主運格】生まれてから0歳~20歳までの運気。親から育てられる運勢。あるいは後輩(年下)との運気。

【人運格】20歳~50歳までの運気。親から離れて社会へ出る時の運気。あるいは結婚運。一番大事なときの運気。社会で活躍できるかがわかる。

【外運格】外から一方的におそってくる運気。対人関係を表す。社会で活躍できるかできないかの運気。

【天運格】社会上の自分の運気。社会上で成功できるか占う。

【地運格】プライベートの運気。男女の付き合い運気。

【総運格】総合的な運気と晩年の運気。

50歳~死ぬまでの運気。

次回もお楽しみに....

事務局からのお知らせ

H18年6月3日(土)、関原の縄文の社にてメンタルヘルス協会総会が開催されました。会員数は38名です。

今回、事務局と運営委員の交代がありました。事務局は山田創さんから山崎芳子さんに交代し、運営委員が力石美也子さんから諸橋喜美子さんに交代しました。

NPO法人としても今年はG.H.虹の建設等で多忙となります。何かと皆様のご協力をお願いいたします。

広報委員よりお知らせ

今回の内容の中でグループホーム虹の世話人とメンバーの原稿の内容の記載が遅くなったことをお詫びいたします。



法人が自ら設立するならいいという。

自分で建設しようなどと思わなかった、思えなかった。

業者からは、土地を借りて新築を進められたが、地代だけで毎月10万だと言われた。春になっても決まらなかった。途方にくれ、仮設にずっといるしかないとも思ったりした。

その後、知事が来訪し実態を見てくれ、ようやく補助金の見直しをしてくれた。そして、当法人による借入金も入れ、新築案で行くことに決まった。土地も市内の方が格安で提供してくれるという話があり、やっと夢はかなえられることになった。

町内の主な人に説明をし、理解をしてもらった。ところがその次の、近隣の方たちの説明会ではことごとく反対された。精神障害を持つ人への偏見、犯罪者と同じ、子どもに何かあったらどうする、夜も眠れない等々。実際に自分のまわりにそういうことが起こったわけでない。みんな聞いた話を自分のイメージでつなぎあわせたものだ、しかし、その人の中ではまぎれもない「事実」だ。わが法人のスタッフも必死で説明した。すると、あなたたちはうまいことを言うといわれた。説明会の途中からこれは無理だなと思った。その晩、ほとんど眠れなかった。

何か問題が起こったときの、そういう時期の、特別な状態の時の「危険」な人を、すべての精神障害に起こることとして理解しているのだ。精神障害をかかえ、苦しみ、生活に支障を持つ人としての理解はない。一方でそういう差別感の中では、当事者たちはひっそりと隠れて生きるしかない。住民に計画を断念せざるを得ないということを伝えたとき、「勝って」帰っていく彼らの顔は決してさわやかには見えなかった。

6月半ば、虹をたずねメンバーたちに断念したとの報告した。70歳の方は、行く場所がいよいよなければ、精神病院に入院するしかないと思っていた。一人ではアパートで暮らせないし、大家も年取っているから嫌がるでしょう。

その後、旧三島町に土地があり、私たちの活動を理解し、寄付に近いかたちで土地を提供してくれるということであった。今度はうまくいくだろうか。町内の役員への説明会では、暖かく迎え入れたいとお話をいただいた。泣きたいくらいうれしかった。心優しい皆さんに心から感謝申し上げた。近隣の皆さんも「心配だ」というものの、あなたたち

も困っているのはよくわかりますといってくれた。8月17日、猛暑の中、地鎮祭をして無事を祈った。その後、改めてメンバー、家族に経過を報告することがようやくできた。現在、工事は着々と進行しつつある。



12月にはみんなで、心から笑おうよ！

グループホーム虹の再建に向けて

グループホーム虹 世話人 小野塚フサ

建設資金の方も何とか目途がつき、土地も見つけ再建に向けて踏み出そうとした矢先、地域住民の大反対でまた計画は断念しなければならなくなり、とても残念でなりませんでした。

私は、怒りとも言えるこの気持ちをどこにぶつけたら良いのかわかりません。精神障害者と言う事で地域社会の中で生活する事に、そんなに問題があるのでしょうか？むしろ一般の普通の方が最近いろいろな事件を起こし社会を騒がせておりますが、この様な方＝精神障害者と勘違いされている方が地域社会では多いのではないのでしょうか。住民の方の反対意見を聞いて思ったのですが、障害者の家族の方や親族の方に本人に対しての暖かい愛情と関心を持っていただき、出来るだけグループホームに足を運んでいただくことで地域社会に、よりいっそう理解をしていただけるのではないのでしょうか。

“捨てる神あれば拾う神あり”の諺のごとく、ここに来てグループホーム虹を受け入れて下さる地域が見つかったとの話もあり、少しは先行きに明るい兆しが見えてきた様なので安心していきます。一日も早い再建を願っています。



マツケンサンバを見に行き行って衣装がとてもきれいだった。

再建する場所(移転先)は火災報知機が着いている場所がいい。パレスタウンのような所がいい。

グループホーム虹様
夕食時に野菜類を多めに頂きたい
新しい住所がどこか早く決まって頂きたい
精神病が治り早く社会復帰したい。
2006.7.6 57歳 男性



G.H.虹の皆さんよう

6月12日マツケンサンバコンサートへ無料招待されました。歌に踊りにきんきらきんの着物がすごかった。

新しく住む住所を見つけてほしい。

今度は7月12日落語会に招待されている。今度も行くと思っている。

フリーマーケットを開催しました

H18年6月17日(土)にグループホーム上除寮にてフリーマーケットを開催しました。売り上げは、¥37,525でした。

今回は、西さんと池田さんに(野菜や小物を)出店していただきました。ご協力ありがとうございました。

